

平成27年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 平成28年5月7日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 協働事業報告書
 - ①外国籍市民支援放送事業・・・・・・・・・・・・P2
 - ②食品の放射性物質簡易検査・・・・・・・・・・・・P10
 - ③感覚統合療法普及事業・・・・・・・・・・・・P18
 - ④平塚市立小中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業・・・P27
 - ⑤市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業・・・・P37

平成27年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成28年5月7日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	協働事業報告会開会 <ul style="list-style-type: none">・協働事業審査会委員長あいさつ・協働事業審査会委員紹介・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
14:10	1. 平成27年度実施事業の報告（プレゼンテーション） <p>※各事業ごとに報告発表（8分：団体4分、行政4分） 審査員からの助言等（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">◆行政提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①外国籍市民支援放送事業②食品の放射性物質簡易検査③感覚統合療法普及事業◆市民提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業 2. 委員長総評
15:45	閉会予定

平成27年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 多文化共生ひらつか情報局

団体代表者 中野 恵子 印

事業担当課名 文化・交流課

事業担当課長 伊藤 良一 印

平成27年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。
記

事業名	外国籍市民支援放送事業		
事業開始年度	平成25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	359,993 円	内 訳	市の支出 342,600 円 ----- 団体の支出等 17,393 円
事業の概要	<p>平塚市で暮らす外国籍市民等が多言語で情報提供を受けることにより安全・安心な生活環境を構築できるように、FM湘南ナパサで多言語放送をする。</p> <p>1 生活情報等 毎週火曜日 19時から20時まで（録音放送日あり） ポルトガル語、タガログ語、スペイン語、中国語、韓国語、英語、日本語の7言語（放送原稿作成、放送キャスター、放送原稿翻訳）</p> <p>2 緊急時 行政・FM湘南ナパサスタッフと協力し、速やかに多言語で情報発信する。</p> <p>3 各種イベントの参加（1、2の活動の普及及び賛助会員の増加を目的）</p> <p>4 団体独自事業</p>		
具体的な実施内容	<p>【毎週火曜日】 FM湘南ナパサで生活情報等を7言語で放送（録音日あり）。参加者（情報局メンバーのみ。以下同じ）のべ492人。</p> <p>平成27年5月19日 FM湘南ナパサと緊急時の対応について協議。参加者4人。</p> <p>平成27年6月7日 平塚市国際交流協会主催「ひらつか国際交流フェスティバル」にて、団体のPR。参加者7人。また、平塚市総合公園園内定期放送を3言語（中国語、ポルトガル語、タガログ語）で2回放送。参加者のべ6人。</p> <p>平成27年8月29日 平塚市総合防災訓練にて団体のPR。参加者3人。</p> <p>平成27年10月25日 ひらつかワールドフェアにて団体のPR。参加者5人。</p> <p>平成27年12月14日 平塚市国際交流協会主催「みんなで楽しもう会」にて団体のPR。参加者 13人。</p> <p>平成28年1月22日 FM湘南ナパサと緊急時の対応について協議。参加者9人。</p> <p>平成28年3月1日 緊急時対応マニュアルの完成。参加者 16人。</p> <p>【団体独自事業】（協働事業をきっかけに次の業務を受託）</p> <p>①（1年間）FM湘南ナパサから受託した「防災インフォメーション」を多言語で毎週月曜から金曜まで17時40分から5分間放送。5言語。参加者のべ144人。</p> <p>②（平成27年9月～11月）公益財団法人かながわ国際交流財団から「INFO KANAGAWA」のPR動画アフレコ業務を受託。（http://www.kifjp.org/infokanagawaで配信中。）参加者のべ12人。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成27年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	342,600	342,600	0	外国籍市民支援放送事業負担金
	団体の支出	15,000	17,000	2,000	会費 1,000×17人=17,000円
	事業収入	138,000	393	△137,607	参考事業収入 163,000円 (賛助会費 3人 5,000円、FM湘南ナパサからの業務委託料 108,000円、かながわ国際交流財団からの業務委託料 50,000円) ※上記は団体の自主事業による収入。
	収入合計	A 495,600円	B 359,993	B-A △135,607円	
② 支 出	コーディネータ費	56,000 (6,600)	50,400 (48,600)	△5,600	700円×72回/12ヶ月/2人
	キャスター費	168,000 (168,000)	142,800 (142,800)	△25,200	700円×204回/12ヶ月/11人
	原稿翻訳費	168,000 (168,000)	151,200 (151,200)	△16,800	700円×216回/12ヶ月/8人
	消耗品費	45,000 (0)	1,653 (0)	△43,347 (0)	伝票代、コピー代、コピー用紙代、ファイル代
	イベント参加費	5,000 (0)	0	△5,000 (0)	無料で参加
	交流会費	29,400 (0)	1,940 (0)	△27,460 (0)	交流会費
	事務費	24,200 (0)	12,000 (0)	△12,200 (0)	事務局長への謝礼金 3,000×4回/1人
	支出合計	C 495,600 (342,600)	D 359,993 (342,600)	D-C △135,607円	
③	収支決算額 B 359,993円 - D 359,993円 = 0円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	多文化共生ひらつか情報局	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	外国籍市民にとって有益な生活情報を継続して発信することができました。緊急時の対応についてFM湘南ナパサとマニュアルを作成すると共に緊急連絡網を整備しました。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	事業のPRについて、団体だけでなく行政も一緒に取り組みました。行政と協働することで団体の信用度が上がりました。また、行政が定期的に情報を提供し、団体は必要な情報を選別しながら放送原稿を作成したことで、必要とされる情報を提供することができました。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	通常放送時だけでなく、行政と定期的な打ち合わせや交流会を開催しました。団体内においても打ち合わせを必要に応じて実施しました。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	随時意見交換するなど、互いの意見や要望を出し合い、円滑に事業を進めることができました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	行政の情報をもとに情報発信ができました。「防災インフォメーション」番組も継続しています。更にはながわ国際交流財団からのPR動画作成業務に関わりました。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	1言語につき複数の人に関わるような体制も整えつつあります。緊急時の対応についてはマニュアルを作成しました。更に緊急連絡網も整備され、スタッフおのおのの意識向上がはかられました。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	高い専門性にもかかわらず、ボランティアで活動をし、質の高い情報を提供しています。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など聴取率は出すことができませんが、イベント等に出向いて事業のPRをしたりして、積極的に活動をしています。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	外国籍市民等が正確に必要な情報を得ることで、地域住民にとっても安全・安心な生活環境が構築されます。
団体のメリット	団体としての信用度が高まり、警察・消防など多方面から情報提供があり、必要な情報を発信することができました。また、かながわ国際交流財団のPR動画作成業務に関わり団体の認識度が県内にも広がりました。
市のメリット	団体と行政との信頼関係が築かれ、情報共有や互いの役割の理解が進んだことで、緊急時の対応について検討することにより外国籍市民等が安心して暮らせるまちづくりが進められます。

(4) その他、課題やその改善方法など

賛助会員の募集活動を継続し、放送に関わる人や協力者を増やしていきたい。
協働事業終了後も独自で活動できるよう、自主財源を確保していきたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 (行政との連携は継続する)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業終了後も団体活動ができるよう自主財源を確保する取り組みを進めていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	文化・交流課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	外国籍市民も安心して暮らせるまちづくりをすすめるため、FM 湘南ナパサで定期的に生活情報等を放送していただくだけでなく、緊急時も関係機関と調整しながらできる限り多言語で情報発信していただく体制を確認できました。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	緊急時にどのような体制をとるのが望ましいか、FM 湘南ナパサの担当者への確認や市の関係部署への確認など、役割に応じて打ち合わせを重ねました。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	メンバー全員が集まるのはなかなか難しいことでしたが、関係する FM 湘南ナパサの担当者や市の関係部署との協議を重ね、緊急時の対応について双方の体制の確認ができました。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	互いに対等な事業パートナーとして尊重し、事業を実施しました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	協働事業の実績のもと、団体の信頼度が上がったことで、(公財) かながわ国際交流財団からの業務委託を仲介することができました。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	多文化共生ひらつか情報局	担当課名	文化・交流課
事 業 名	外国籍市民支援放送事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体と担当課だけではなく、関連するFM湘南ナパサや市の防災部署と協議を重ねて緊急時のマニュアルを作ることができました。

緊急時に即時に参集することは、FM湘南ナパサから求められていないことがわかりましたが、状況に応じて外国籍市民に正確で安心できる情報を届けられるよう、日ごろの生活情報等の放送活動を通して、関係機関との連携を深めていきます。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

放送に携わる人が増え、1言語につき複数の人が関わるような体制も整えつつあります。団体のPR活動は引き続きイベント等で続け、自主財源の確保に努めていきます。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

外国籍市民等が正確に必要な情報を得ることで、地域住民と共に安全・安心な生活環境が構築できると再認識したので、今後も活動を継続していきます。

協働事業の実績のもと、(公財) かながわ国際交流財団から業務を受託し、県内の外国籍県民のためにも活動できました。

(4) その他、課題やその改善方法など

自主財源の確保や放送に関わる人を増やすなど、いっそう団体の基盤を強化していきます。団体のPR活動も引き続き多方面で進めていきます。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他 (情報提供等の連携は維持しながら、事業は団体が継続する。)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成27年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

		NPO法人	
団体名	ひらつかエネルギーカフェ		
団体代表者	田中 良治	印	
事業担当課名	市民情報・相談課		
事業担当課長	二見 博幸	印	

平成27年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	食品の放射性物質簡易検査		
事業開始年度	平成 25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	777,886 円	内 訳	市の支出 702,964 円 ----- 団体の支出等 74,922 円
事業の概要	独立行政法人国民生活センターに申し込んで貸与を受けた放射性物質検査機器を使い、市民が日常消費する食品（米、野菜、魚等）の放射性物質簡易検査を実施し、消費者である市民の食に対する不安を軽減、解消する。 週に1日検査日を設定し、最大4件をその日の担当検査員1名が実施する。 市と団体が共同で作成した市民向け啓発用パンフレットやチラシをイベント等で配付するなどして検査実施の周知に努めた。		
具体的な実施内容	検査機器をNPO法人ひらつかエネルギーカフェ内に設置し日常管理、検査体制を整備していた。平成27年4月から平成28年3月までに93件の検査を実施、全件検出限界値未満であった。市民活動団体が目の前で検査を実施し、市民自身が結果を確認できるので、強く安心を実感することができた。 市民の食品と放射能への不安解消および正しい理解を深め、広く知識の啓発や制度の周知を図るため、行政は食品と放射能に関する市民向け講座を5月24日に開催。団体との共催で、7月23日にはソーラークッキング体験を通じてエネルギー問題の関心を広める、親子対象の講座、2月9日には京都大学特任准教授広中哲二氏に地域での放射能検査の取組と意義等解説いただいた。 市民の食品と放射能に関する意識の把握にも努め、9月27日は消費生活センターまつりと同日開催の市民活動センターまつり来場者任意の100名に対して次年度事業の改善につなげるべく「食品中の放射性物質等についてのアンケート」を実施集計した。団体は、市民とのコミュニケーション強化をはかるツールとしてフェイスブックにより活動状況をわかりやすく発信した。 市農水産課を通じた市民農園利用者への呼び掛けや、昨年度から引き続き大磯町との連携により町民の検査品受入を実施した。		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成27年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収入	市の支出	755,760	702,964	-52,796	①負担金(団体へ)344,400円②検査機器保守費 326,160円 ③消耗品費 32,404円
	団体の支出	67,760	74,922	7,162	団体の会計から支出
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 823,520	B 777,886	B-A -45,634	
② 支出	検査機器保守費	326,160 (326,160)	326,160 (326,160)	0	検査機器点検 (年1回)
	検査用消耗品費	30,000 (30,000)	32,404 (32,404)	2,404	検査試料費 23,764円、事業広報用消耗品費 8,640円
	検査員謝礼金 (有償ボランティア)	129,600 (129,600)	74,400 (74,400)	-55,200	検査@800円×93件
	検査機器設置費	270,000 (270,000)	270,000 (270,000)	0	22,500円×12月、検査用光熱水費、校正費用等を含む
	検査員交通費	17,760 (0)	12,300 (0)	-5,460	往復 820円×15日=12,300円
	団体側広報費	50,000 (0)	62,622 (0)	12,622	
		()	()		
		()	()		
支出合計	C 823,520 (755,760)	D 777,886 (702,964)	D-C -45,634		
③	収支決算額 B777,886円 - D 777,886円 = _____ 0円				【備考】 負担金 55,200円は、団体より戻入済

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人ひらつかエネルギーカフェ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	消費者の「食に対する信頼」を回復するために、①身近な地方自治体である市レベルで、②市民が消費する食品（お米、野菜等）について、③市民が安心して依頼できる、そのような検査体制を整えることに協力して努めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	受付、問合せ、結果の取扱い等については行政が行うことにより、また検査実務については専門的知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより、市民が利用しやすく信頼感のある情報提供を円滑に行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	検査にあわせて随時意見交換を行い、検査をより広く市民に利用してもらう方法等について検討した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	随時意見交換をするなど、お互いの要望意見を調整して円滑に事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	放射性物質検査機器は高額だが、市が国より借り受けることにより団体の負担は軽減された。また、市にはエネルギーの専門的知識を持つ担当がないが団体の専門的知識により実施できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	多くの場合「市民の食に対する不安を解消する」ことに寄与できた。また25年度には放射能基準値を超える検体が1件あったが、この場合も食するのを未然に防ぐことができ、また同作物の流通食品に重点的に検査が行われる効果が得られた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	26、27年度は予定の検査件数の約75%を実施でき、25年度に比べて大きく上回り、1件当たりの単価としてはかなり改善された。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	依頼者にアンケートをお願いした結果、満足であるとの回答が大半を占めた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができた。
団体のメリット	市民への省エネ・創エネ相談に加え、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼性の確保に繋がった。
市のメリット	25年度には検査結果が基準値を超えた自家栽培品が1件あったが、消費されるのを回避でき、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。

(4) その他、課題やその改善方法など

市民へ広く制度を周知し放射能への関心を風化させないためにも、親子対象の放射能教室の開催等、子供から大人まで未来に繋がる広報活動の充実を行政と団体間で検討し検査件数の拡大に繋げた。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他 (単独実施を検討中)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また廃炉過程で新たな汚染物質拡散も懸念されており、継続が必要な事業と考える。協働事業より検査対象を拡大(食品以外の検体や平塚・大磯以外の地域市民など)して実施を検討中。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	市民情報・相談課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	市民の食品に対する不安を解消し信頼を回復するために、放射能というものの理解を検査や情報提供を通して深めてもらい、日常消費する食品の検査体制を整えることで、市民に安心、安全な生活を送ってもらえるよう協力して努めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	受付、問合せ対応、結果公表等については行政が行い、また、検査実務については専門知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより、市民は利用しやすく、信頼感を持って情報提供を受けることができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	毎月複数回実施の検査の際には、二人の検査員それぞれと随時話し合い、現状やより多くの市民にこの事業を広める方法等を模索した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	何か問題があればすぐに伝え、随時意見交換をする等、互いの要望や意見を調整しながら事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	放射性物質検査機器は高額で市や団体が独自で購入、設置することは難しいが、国からの貸与を受けることで検査が可能となり、また専門知識を持つ団体と連携することにより検査、その結果分析等が実施できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	目標である「市民の食に対する不安を解消する」ことはできた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	3年間の検査件数の変化を見ると、初年度に比べて2年目3年目はより多く、実施でき、検査品の野菜等価格の不安定もあったが、概ね検査件数は実施できた。 精密機器である機器の保守に費用がかかってしまったことは例年どおりだった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	依頼者にアンケートをお願いした結果、満足であるとの回答が大半を占めた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができた。
団体のメリット	市民への省エネ・創エネ相談に加え、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼性の確保に繋がった。
市のメリット	3年間で検査結果が基準値を超えた自家栽培品は1件あったが、消費されることを回避でき、同作物の流通品について重点的に県の検査が実施されることになり、流通食品の安全が確保された。

(4) その他、課題やその改善方法など

市民へ広く制度を周知し放射能への関心を風化させないためにも、親子対象の放射能教室の開催等、子どもから大人まで未来に繋がる広報活動の充実を行政と団体間で検討し検査件数の拡大に繋がるよう努めた。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

この事業を実施した3年間で検査結果が基準値を超えた自家栽培品は1件のみでそれ以外の流通品等については全て基準値以下だったこともあり、市民が安心を得られたのか持込件数は少なくなっており、当初の協働事業の目的は達成できたと判断できるため、事業期間の満了に伴い終了することとした。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	NPO 法人 ひらつかエネルギーカフェ	担当課名	市民情報・相談課
事 業 名	食品の放射性物質簡易検査		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点など共有事項が多く、団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めることができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点など共有事項が多く、団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めることができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

団体・行政、各々で確認したところ、「市民・団体・市のメリット」について同様に考えており、団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていくことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

団体・行政、各々で確認したところ「その他、課題やその改善方法など」について同様に考えており、団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めることができた。

(5) 今後の具体的な展開

- | | |
|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 今後も双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） | <input type="checkbox"/> 休止または終了 |
| <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 | <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 団体が単独で実施を検討中 ） | |

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

行政はこの事業について、3年間で基準値を超えた自家栽培品が1件でそれ以外の流通品等については全て基準値以下だったこともあり、持込件数は少なくなっており、当初の協働事業の目的は達成できたと判断できるため、事業期間の満了に伴い終了することになったが、団体側は、この3年間の経験を生かした単独活動へつなげていくことができるのではないかと検討中である。

平成27年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	ひろげよう子育て支援の会		
団体代表者	田中 眞知子	印	
事業担当課名	こども家庭課		
事業担当課長	瀬戸 雅史	印	

平成27年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	感覚統合療法普及事業																																																																													
事業開始年度	平成 26年～				提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業																																																																								
事業費	114,360 円				内 訳	市の支出			64,860 円			-----																																																																		
						団体の支出等			49,500 円																																																																					
事業の概要	発達に課題をもつ子どもたちへの療育プログラムの一つである感覚統合療法を普及するため、くれよん1階保育室に感覚統合遊具を整備し、親子でたのしく体験したり、児童発達支援事業所を利用する子どもたちが職員とともに来所し遊具を活用した。事業所職員、幼稚園保育所職員向けの勉強会を開催し、知識や体験を活かしたプログラムを子どもたちに実施できるようサポートした。また、発達障害当事者である笹森理絵さんを講師に研修会を開催し、多くの市民とともに発達障害と感覚統合について理解を深めることができた。																																																																													
具体的な実施内容	○児童発達支援事業所の体験利用 くれよんが使用しない空き時間に、各事業所が感覚統合遊具を体験利用した。 <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用回数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>利用事業所数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>利用児数</td> <td>14</td> <td>46</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>43</td> <td>24</td> <td>3</td> <td>57</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>職員・保護者</td> <td>16</td> <td>25</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>161</td> </tr> </tbody> </table> * 公立保育園の利用を含む。 * 利用事業所数計は実事業所数。利用児人数、職員保護者数は、延べ人数。子育て支援の会メンバーのサポート参加はなく、くれよんとのメールによる日程調整と各事業所の自主運営・報告書の提出で実施。													月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	利用回数	4	6	3	4	3	5	5	1	6	2	1	40	利用事業所数	4	6	3	4	3	5	4	1	6	2	1	39	利用児数	14	46	11	18	14	43	24	3	57	5	5	240	職員・保護者	16	25	11	17	15	21	20	2	21	6	7	161
月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計																																																																		
利用回数	4	6	3	4	3	5	5	1	6	2	1	40																																																																		
利用事業所数	4	6	3	4	3	5	4	1	6	2	1	39																																																																		
利用児数	14	46	11	18	14	43	24	3	57	5	5	240																																																																		
職員・保護者	16	25	11	17	15	21	20	2	21	6	7	161																																																																		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。	○合同勉強会 児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所の職員が参加する勉強会を開催し、毎回各事業所での取り組みやグループワーク等で感覚統合に関する学びを共有し深めた。勉強会のプログラム作り、進行や助言を会のメンバーでおこなった。今年度より、幼稚園保育所職員の勉強会も開催することができた。(3/18 参加申し込みが少なく延期した) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>月/日</th> <th>事業所</th> <th>7/10</th> <th>10/9</th> <th>3/18</th> <th>幼・保</th> <th>8/7・21</th> <th>9/18・25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数</td> <td></td> <td>25</td> <td>23</td> <td>中止</td> <td></td> <td>26</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>施設数</td> <td></td> <td>7</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>													月/日	事業所	7/10	10/9	3/18	幼・保	8/7・21	9/18・25	参加人数		25	23	中止		26	34	施設数		7	8			20	22																																									
月/日	事業所	7/10	10/9	3/18	幼・保	8/7・21	9/18・25																																																																							
参加人数		25	23	中止		26	34																																																																							
施設数		7	8			20	22																																																																							

○親子であそぼう体験会

未就学児の親子を対象に、市内保育所や幼稚園に広報し、遊具を使っておもいきり体を動かして遊ぶ会を開催した。お子さんの発達や運動面の心配について相談する保護者もあった。プログラムの流れを固定し、少人数のスタッフで運営が可能になった。

月/日	8/1	8/29	11/14	12/19	2/6
参加親子（組）	5	9	6	8	4
こども人数	6	12	8	11	7

○研修会（笹森理絵さん講演会）

大人の発達障害当事者で3人の子育てをしている笹森理絵さんを講師に迎え講演会を開催した。当事者として、理解されにくい感覚の問題をわかりやすくお話くださり、発達障害と感覚統合についての理解を広げることができたとともに、いろいろな立場の参加者が共感できる内容だった。参加者の1/3が保護者・家族で、質疑応答でも多くの質問が出て充実した時間となった。参加費500円とし、講師の交通費とした。無料ではなかったことについて、少数の参加者より意見があった。学校の先生の参加者が少なく残念だった。

講師の都合により日程が決まり、市民活動センターの利用が難しかったため、会場を市とともに検討し、駐車場の広い平塚市保健センターとした。

9月5日（土） 参加者 99名 （アンケート回収 79）

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成27年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	80,000	64,860	-15,140	負担金34,860円 報償費30,000円
	団体の支出	5,000	0	-5,000	スタッフボランティア昼食代
	事業収入	0	49,500	49,500	研修会参加費収入 500円×99名
	収入合計	A 85,000	B 114,360	B-A 29,360	
② 支 出	謝金 (講師)	30,000 (30,000)	30,000 (30,000)	0	研修会講師・笹森理絵さんへの謝礼
	謝金	7,500 (7,500)	9,000 (9,000)	1,500	研修会当日スタッフ 500円×3名=1500円 親子で遊ぼう体験会当日スタッフ 500円×3名×5回=7500円
	保険料	0 ()	6,512 (6,512)	6,512	親子で遊ぼう体験会・傷害保険料 1000円×5回、送金手数料計 1512円
	通信費	8,000 (8,000)	3,280 (3,280)	-4,720	研修会お知らせ発送 切手代 82円×40枚=3280円 (会の過去の研修会参加者等へ) 幼稚園・保育所・事業所等への広報は市よりメール等でおこなったため。
	事務用品・印刷	3,000 (3,000)	2,068 (2,068)	-932	研修会ちらし印刷 (主に市で印刷し追加分)、発送用封筒、ラベルシール
	旅費・交通費	31,500 (31,500)	13,500 (13,500)	-18,000	遊ぼう会スタッフ交通費 500円×3名×5回=7500円 研修会当日スタッフ交通費 500円×3名=1500円 合同勉強会スタッフ交通費 500円×9名 (のべ) =4500円
	講師交通費	0 (0)	50,000 (500)	50,000	研修会講師・笹森理絵さん (兵庫県在住) の交通費として、参加費収入からの不足分を経費より補てん
	飲食費	5,000 (5,000)	0 (0)	-5,000	昼食代支出なし。
	支出合計	C 85,000 (80,000)	D 114,360 (64,860)	D-C 29,360 (-15,140)	
③	収支決算額 B 114,360円 - D 114,360円 = 0				【備考】 負担金 15,140円は戻入済み

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひろげよう子育て支援の会	■団体 □行政
事業名	感覚統合療法普及事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	子どもにかかわる保護者や支援者が感覚統合の知識を持つことで、子どもたちの行動を共感的に理解できるよう感覚統合の考え方を広く普及するという目的を共有し、各事業を実施することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	市は、事業所や保育所・幼稚園等への連絡や広報、備品の活用や会場の準備等を分担、会は、平塚市くれよんスタッフと打ち合わせしながら勉強会の準備や運営をおこなったり、研修会講師との連絡進行等をこれまでの経験を活かし分担できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	相互に時間を調整しながら、準備や打ち合わせを短時間でもできるだけ行い、事業の実施状況を共有できるよう努力した。前年度に続いての事業については、前回の確認のみで進めることもできた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	時間もマンパワーも限られる中、たがいにもできるだけ負担が少なく実施できるよう努力しながら、事業をすすめられたと感じている。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	市が所有する資源を活用することで、より多くの子どもたちや保護者が楽しく体験できる機会を広げることができた。研修会の広報をそれぞれのチャンネルで広く行い、多くの市民の参加を得ることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市こども家庭課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	感覚統合療法普及事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	たのしみながら身体を動かし、発達をうながすという感覚統合の考え方と発達障害について普及していきたいという目的を事業を通じ共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	市は、連絡調整や広報、会場確保等の事務的な役割を担当した。団体は、ノウハウを活かし勉強会の企画や準備、運営などの役割をおこなった。ネームバリューのある講師を選び講師依頼し、遠方から呼ぶことができたことなど、研修会を重ねている会の経験が活かされた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	2年目は、できるだけ負担にならないよう短い時間ではあったが、必要な準備や打ち合わせを行った。顔を合わせる機会に次の話し合いができるよう調整した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	疑問点については、その都度話し合い、相互の状況を理解確認しながら進めてきた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	遊具を使いどのように子どもたちに遊びを提供できるか、団体がスタッフとして参加した勉強会やあそぼう会を通し、具体的に知らせてもらい、体験しながら広く市民に感覚統合について知らせ、発達障害についての理解啓発もおこなうことができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひろげよう子育て支援の会	担当課名	こども家庭課
事 業 名	感覚統合療法普及事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体スタッフ市職員ともに、それぞれの業務以外の時間を出し合うために、相互の状況を理解しながら、話し合いや準備の時間を作り、事業を進めてきた。その中で、自分たちが感覚統合についての知識を深めることができた。また、その知識を他者に伝えることの大切さを改めて確認することができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

アンケートの結果など、各事業で参加して良かったという評価をいただき、次の事業に進むことができた。くれよんの相談ケースが増加する中で、事業所等が遊具を活用できる時間が限られてはきているが、勉強会を通し、大型遊具で体験したことを、どのように各事業所で応用するか考えられるよう提案したことは、良かった。研修会の内容も、事業に沿うもので、さまざまな立場の多くの市民が参加し、学びを共有することができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

平成 27 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

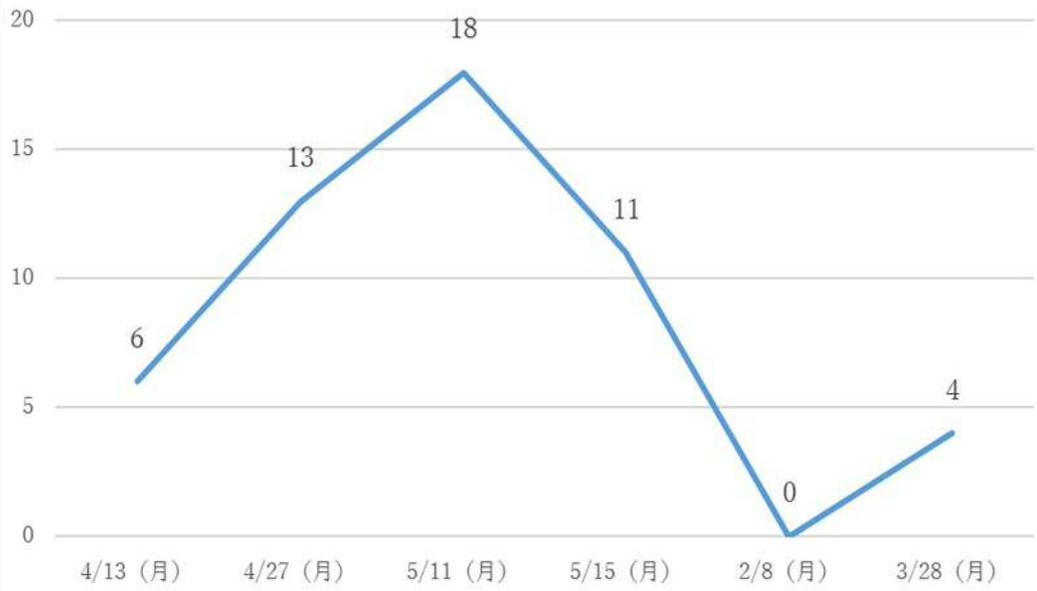
団 体 名	東海大学地域スポーツクラブ	
団体代表者	萩 裕美子	印
事業担当課名	スポーツ課	
事業担当課長	小泉 一郎	印

平成 27 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

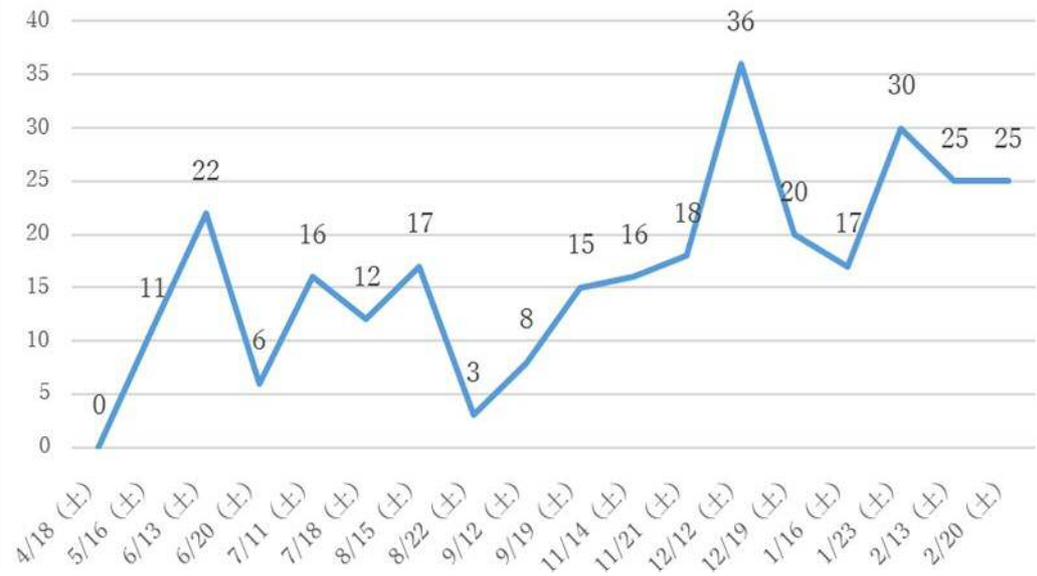
記

事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業														
事業開始年度	平成 26 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業												
事業費	233,169 円	内 訳	市の支出 200,000 円 ----- 団体の支出等 33,169 円												
事業の概要	<p>市民の皆様が気軽にスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、小中学校の運動場、体育館を利用して、ひとりでも利用できる個人利用の日を設けています。東海大学地域スポーツクラブの管理者が、初心者に対する助言・けがの応急処置・用具の管理等を行います。</p>														
具体的な実施内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>日時</th> <th>種目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金目中学校</td> <td>第 2・4 月曜日 (6~1 月を除く) 19:00~21:00</td> <td>バスケットボール バドミントン</td> </tr> <tr> <td>みずほ小学校</td> <td>第 2・3 土曜日 (4・5 月は第 3 土曜日のみ) 13:00~16:00</td> <td>卓球、バドミントン ショートテニスなど</td> </tr> <tr> <td>中原中学校</td> <td>第 2 木曜日 (6 月以降) 19:00~21:00</td> <td>バスケットボール バドミントン</td> </tr> </tbody> </table> <p>実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。</p>			学校名	日時	種目	金目中学校	第 2・4 月曜日 (6~1 月を除く) 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン	みずほ小学校	第 2・3 土曜日 (4・5 月は第 3 土曜日のみ) 13:00~16:00	卓球、バドミントン ショートテニスなど	中原中学校	第 2 木曜日 (6 月以降) 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン
学校名	日時	種目													
金目中学校	第 2・4 月曜日 (6~1 月を除く) 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン													
みずほ小学校	第 2・3 土曜日 (4・5 月は第 3 土曜日のみ) 13:00~16:00	卓球、バドミントン ショートテニスなど													
中原中学校	第 2 木曜日 (6 月以降) 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン													

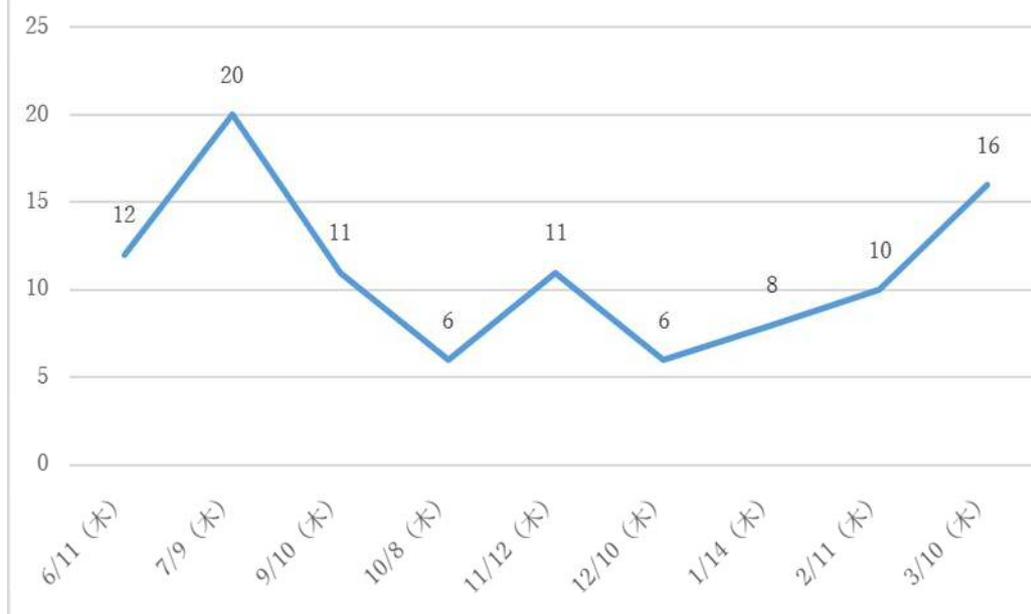
金目中 参加人数



みずほ小 参加人数



中原中 参加人数



参加人数

	金目中	みずほ小	中原中	全校
合計	52	297	100	449
平均	8.7	16.5	11.1	13.6
実施回数	6	18	9	33

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成27年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	200,000	200,000	0	
	団体の支出	32,000	33,169	+1,169	(開放実施日数が予定より増えた為)
	事業収入				
	収入合計	A 232,000	B 233,169	B-A +1,169	
② 支 出	謝金(有償ボランティア)	153,600 (153,600)	158,400 (158,400)	+4,800	1回 2400円×のべ66人 領収書番号: 1~66 (開放実施回数が増えた為)
	交通費	32,000 (0)	33,000 (0)	+1,000	1回 500円×のべ66人 公共交通機関につき領収書なし (開放実施回数が増えた為)
	プログラム諸費	30,000 (30,000)	26,045 (26,045)	-3,955	バドミントンラケット・シャトル、名札等 領収書番号: 67~72 (開催2年目につき、購入品が減った為)
	事務費	5,560 (5,560)	5,964 (5,795)	+404	領収書、ペン、コピー代等 領収書番号: 73~80
	保険料	10,840 (10,840)	9,760 (9,760)	-1,080	領収書番号: 81 (当初の予定より保険料が下がった為)
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 232,000 (200,000)	D 233,169 (200,000)	D-C +1,169	
③	収支決算額 <u>B</u> 233,169円 - <u>D</u> 233,169円 = <u>0</u> 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	東海大学地域スポーツクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民のスポーツへの参加意欲およびスポーツ実施率の向上の為、気軽にスポーツのできる環境を提供できたと考える。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	今年度は施設所有者責任者賠償責任保険の加入したことにより、団体のみでの開放実施が可能になった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	開放実施を当団体だけで行えるようになった為、必要に応じて打ち合わせを行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施できましたか。	4	お互いの長所・短所を補いながら活動できたと考える。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られましたか。	5	行政の力を借りることにより、広く広報活動が行えた。 また、信頼性という点において、当団体は大きな力添えをいただいた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	金目中学校の改修工事の影響で、実施校の変更等があった中で、年間33回の開放実施に述べ449人の参加者が集まったことは地域住民にスポーツの機会を提供できたと考えられる。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	費用対効果はわかりにくいですが、参加者の声を聞く限り、スポーツをする機会が増えたとのこと。 また、参加者数を見ても、スポーツを行う機会の提供ができたと考えられる。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)		※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などアンケートを配布したが、現在集計が終了していない為、評価ができない。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体に所属しない個人が学校開放に気軽に参加できる。また、競技者同士のコミュニティの場としての役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場として期待できる。
団体のメリット	学生が日々学んでいる成果を試すことのできる場として期待できる。さらに、大学の地域貢献としての意味もあり、東海大学のことを市民が理解し、身近に感じてもらえることができる。
市のメリット	市民のスポーツ実施率の向上につながる。また、東海大学(主に体育学部)との提携事業により、市民により専門性の高いスポーツ機会を提供することができる。

(4) その他、課題やその改善方法など

継続した活動を行う為の団体の組織づくりは来年度以降も継続して行う。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

参加者のニーズに合わせ、プログラムの修正や追加をしていく。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民のスポーツへの参加意欲およびスポーツ実施率の向上という目的を共有し、気軽にスポーツが楽しめる環境づくりを行った。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体が主体的に運営してくれるようになり、広報やアドバイスに注力できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	団体が主体性に運営できており、適宜協議を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	団体の主体性を発揮できるように努めた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	団体の特性である専門性や若さを活かして活発な事業展開ができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	東海大学地域スポーツクラブ	担当課名	スポーツ課
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

目的共有もなされており、団体の主体性も高まったことで、行政に頼ることなく運営ができています。役割分担も機能してきており、対等な立場でお互いの長所・短所を補完できていると思われる。相互評価や波及効果としては、学生が実施することで市民目線に近い運営となっており、また体育学部のノウハウを活かした指導も行うことができています。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、延べ人数が昨年度よりも減ったものの、実施回数や登録人数が増えたため、概ね達成できていると考える。

「費用対効果」については、参加者からスポーツする機会が増えたという声がある点は評価できるが、本事業は効果が測りにくいので、引き続きアンケートを実施していきたい。

「受益者サービス」については、アンケートの結果待ちだが、来年度はマンネリ化しないよう新たなプログラムを計画している。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民のメリットは、団体に所属しない個人が学校開放に気軽に参加できていること。また、競技者同士のコミュニティの場としての役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場となっていること。

団体のメリットは、学生が日々学んでいる成果を試すことのできる場となっていること。

市のメリットは、地域住民のスポーツへの参加意欲の向上につながっていること。また、市民により専門性の高いスポーツ機会を提供することができていること。

以上のことからお互いのメリットを享受できているといえる。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・ 団体の人材の流動性 ⇒ 後進の確保、ノウハウの形式知化に取り組んでいく。
- ・ 備品等の運搬 ⇒ 学校と協議していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外) □休止または終了
□行政が単独で実施 □団体が単独で実施
□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 子どもや高齢者が楽しめるプログラムを計画し、裾野を広げていきたい。
- ・ 提案型としては最終年度となるため、次年度以降の実施に向けて双方で協議していく。

平成 27 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	非営利活動法人湘南ふじさわ シニアネット		
団体代表者	代表理事	小林信武	印
事業担当課名	スポーツ課		
事業担当課長	小泉 一郎		印

平成 27 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。
記

事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		
事業開始年度	平成 26 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	947,000 円	内訳	市の支出 872,000 円 ----- 団体の支出等 75,000 円
事業の概要	<p>本事業は、スポーツを希望する市民が「いつでも、どこでも、手軽に」ホームページから市内のスポーツ団体に関する活動情報を得られるようにすることで、スポーツに取り組む市民が増えるとともに、地域におけるスポーツ活動がこれを機に、更に活発化する相乗効果を期待するものである。</p>		
具体的な実施内容	<p>1. H27.4.1 ひらつかスポーツナビをオープンし、HPの運用を開始した。 H27 年度 年間訪問者 約 56,000 人 (約 4,700 人/月) 年間リピータ 約 32,300 人 (約 2,700 人/月) 年間ページビュー約 153,000 (2.7 ページ/訪問者) 記事投稿約 1,000 件。 365 日、24 時間 連続運用 (停止時間 0) モバイル参照率 (H28 年 3 月度) <u>63.8%</u></p> <p>2. 事業継続の 2 年目として、以下の情報掲載の充実・新規機能追加を行った。</p> <p>1) スポーツ市民団体の情報整備と掲載 (随時公開、51 団体) 及び、これら登録団体の勧誘活動 (1 月) <u>総計 137 団体</u></p> <p>2) スポーツ施設情報 (1 月公開) (小中学校 43、公民館 5) <u>総計 80 施設</u></p> <p>3) 動画マニュアル (6 月公開)、市民団体検索新機能 (1 月公開) 4) ユーザサポート・相談会 (6/27、参加 15 団体) 5) アンケート実施 (11 月) と報告会 (12 月、参加 17 団体) 6) その他 動画映像の記事掲載 (1 月市内駅伝大会、旭地区 2 件) ベルマーレ市民記者投稿 43 件、運用ブログ開設 (1 月、4 件)</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成27年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	872,000	872,000	0	平塚市負担金
	団体の支出				
	事業収入	17,500	75,000	57,500	バナー広告 10,000 x 6、大会アルバム作成 15,000 (記事有償代行なし)
	収入合計	A 889,500	B 947,000	B-A 57,500	
② 支 出	1 全体設計・調整 ・レイアウト修正等	19,200 (19,200)	64,608 (64,608)	45,408	・設計の全体調整、デザインレイアウト修正等 8h x12= 96h
	2 機能拡充 ・施設情報追加 ・市民団体検索 (新)	61,600 (61,600)	180,364 (105,364)	118,764	・スポーツ施設情報(公民館 30)→小中学校 43+公民館 5 に計画変更 設 20+開 48+試 50=118h ・市民団体検索 新機能の開発。150h 一広告費 75,000 円を充当
	3 団体情報追加 (記事更新代行)	191,500 (184,000)	129,889 (129,889)	-61,611	・団体情報 200 団体→実績 51 団体 x (登録・テスト) 3h x51=153h ・登録団体の勧誘活動 40h 記事代行依頼なし
	4 操作支援 5 動画教材	128,000 (128,000)	93,211 (93,211)	-34,789	・ユーザ相談会 6/27 (15 団体) +12/21 (17 団体) +準備 =28.5h ・動画教材 10→11 本 110h
	6 システム構築・維持費 7 打合せ、サポート	262,200 (262,200)	282,660 (282,660)	20,460	・レベルアップ/バックアップ、セキュリティ監視等 30hx12=360h ・アクセス解析等 12 回 x 5h =60h
	9 交通費 (市+パートナ)	34,440 (34,440)	54,128 (54,128)	19,688	・市定例会 12 回→15 回、パートナ団体 9 回→1 回 (予算過少)
	10 賃貸・11 ソフト費	59,400 (59,400)	32,085 (32,085)	-27,315	・サーバーレンタル等システム環境は増強なし ・ソフト費は予算どおり購入・更新 (CP、Menu、Tag)
	12 管理費・8 事務用品	133,160 (123,160)	110,055 (110,055)	-23,104	・プロジェクト管理 24h 14,894 円 x 税 =16,086 円 ・1-7 項の一括消費税分 60,059 円 ・事務費 12,766 円、パートナ依頼 (外注費) 21,144 円
	支出合計 (番号は予算書項番)	C 889,500 (872,000)	D 947,000 (872,000)	D-C 57,500	
	③	収支決算額 B 947,000 円 - D 947,000 円 = 0 円			

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A:「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人湘南ふじさわシニアネット	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータルサイトがその結果です。 ・スポーツ課の要求どおりにはいかなかったが、市民へのスポーツ情報の一元化、広報に役立てることができた。 ・コンテンツ量の拡大と仕様の明確な追加機能であったためスムーズに進捗した。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・協議され、「分担」は問題なく実行されてきました。 ・スポーツ課の難しい企画・提案に対しては、表現方法について探求し、歩み寄ることができた。 ・適正でした。動画マニュアル、動画記事
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1回/月の定例会議は延長協議となる事が多かった。また疑問点はその都度協議し解決した。 ・定期的に打合せを開催すると共に、必要な都度メール交換して解決を図った。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会、アンケート実施、コンテンツ掲載など共同で実施して、協調性が高まった。 ・少し無理なお願いをすることもあったが、状況をご理解いただけた。 ・技術、情報の交換が出来た。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらスポナビは共同事業でこそ出来た事業です。これからも相互の意見交換で波及効果は得られる。 ・単独では納期遅れが発生しやすいが、刺激し合うことで品質、納期、コスト目標をクリア出来た。 ・団体の情報等をいただかない限り、決して単独では実現できない事業であった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの普及に相まって「いつでも、どこでも、手軽に」を目指し、スポーツ情報を発信する目的は実現できた。 ・平ナビサイトの周知度はアクセス状況に順調に表れている。広報に関して市全体の応援があればもっとアクセスが増えると思う。 ・記事掲載方法の動画マニュアル作成公開や、動画記事を掲載する等、実用新技術のトライできた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・H26-27年度約200万円の投資。H27年度の訪問者は約5万6000人。訪問者のコストは約36円/人/H27。 ・スポーツに関する情報をタイムリーに公開出来る仕組み創りができた結果、団体からの発信情報は年間1,000件の記事投稿と、年間15万ビューを超える訪問者の参照実績を挙げた。 ・SFSとしては、NPO 価格に徹して実現に向けて推進してきたが、費用対効果は持ち出しのように感じる。 ・経費削減があり、毎回サイトの見直しをしなければならず、計画予定の変更を余儀なくされた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	<ul style="list-style-type: none"> ※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など ・11月の団体向けアンケートでは、34団体からの回答があり、60%超から好評価を得た。2月より市民に近い団体からのアンケートを実施中。 ・4月の開設からアクセス数が順調に伸び、イベントが有る都度増加していることから判断して、このサイトが市民権を得つつあると判断できる。 ・サイト訪問者は5万人/年間を超えており市民に活用されつつある段階と考えている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ/健康を中心とした行政サイドからの情報(スポーツ課、総合公園課、障がい福祉課、健康課など)を市民はタイムリーにかつ統一的に得られるようになった。 ・スポーツ施設や、スポーツ団体と市民団体の活動情報が網羅的に、かつ即時に入手出来るようになり、スポーツがもっと身近になった。 ・スマホなど携帯機器から、いつでもスポーツ情報を参照できるようになった。モバイルから見にくる人は、サイト訪問者の64%(月約3,000人規模)へ。
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関係のポータルサイト事業を構築・実施でき、その経験を得たことが財産。 ・上記から、自団体のポータル開発・運営等の改善が図れた。
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り組織から市民へのバラバラな形式による情報発信が、このポータルで、より統一的な情報発信を行えることが実績を通し見通しが得られたのではないかと。 ・従来型の市民からの問い合わせが少なくなった、または無くなったか。

(4) その他、課題やその改善方法など

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	協働2年目となり、協働団体と日常的に情報共有をすることや、月1回以上の打ち合わせをすることで、概ね目的の共有が出来る様になったと思います。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	協働団体は、専門知識を活かし、サイトの機能開発、保守管理を行い、市は関係団体との連絡調整、サイトの広報、新規登録団体の募集等を行い、それぞれの強みを活かした役割分担を行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	毎月1回の定例会の他、必要に応じて打ち合わせをおこなっている。また、メールのやり取りを随時行い、メンバー間の情報共有を行っている。 綿密なやり取りを行うことで、双方の特性の理解に努めている。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	事業を実施する際には、双方で協議した上で進めており、役割分担を踏まえた上で、行政と市民団体が対等な立場を尊重しながら事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	相互の特性を活かした協働事業を行っており、協働団体のサイト構築のノウハウだけではなく、民間団体の柔軟な視点での事業提案を取り入れることにより、行政が一方的に作成するサイトにはない市民目線を尊重したサイトが構築されつつある。 また、行政のスポーツ団体との繋がりや知識をいかすことにより、利用者へのきめ細かいサポートが出来ている。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	定型的なスポーツ情報は勿論のこと、スポーツ団体が自ら記事投稿を出来る仕組みや市民の方々に魅力ある記事の掲載等、行政と市民団体の一方だけでは達成できない事業を行うことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	双方の特性を活かした事業を行うことで、相乗効果が生まれ、経費に見合う以上の費用効果を得る事ができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 平成27年11月頃に実施したサイト利用対象団体アンケートでは、6割以上の団体がサイトを評価すると回答しており、大方の団体より評価していただいています。ただ、アンケート無回答も3割程あり、今後もサイト利用の啓発が必要。

（３）実施したメリット

市民のメリット	市内の多くのスポーツ情報（イベント、団体、施設等）をワンストップで閲覧することが出来る様になり、利便性が向上した。 スポーツ団体はサイトにページを持つことにより、活動をアピールする場が出来た。
団体のメリット	市と協働でサイトを構築することにより、市のスポーツ団体との繋がりや信頼性、組織力を活用したサイトづくりが出来た。
市のメリット	協働事業により、市民目線でのサイトを構築できた。 市の事業を円滑かつ効果的に市民の方々にアピールすることが出来た。

（４）その他、課題やその改善方法など

<p>サイトをより魅力的なものにするためにも、定型的な情報だけではなく、市民の方々に、市民のニーズに応えたより魅力的な情報（健康情報など）を提供する必要があると思います。</p> <p>平成29年度以降の安定した財源を確保する必要があります。</p>

（５）今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

<p>・開設されたポータルサイトは、今後も登録団体や施設情報を増やし、充実した内容にしていくとともに記事投稿のほかにも市民参加型のサイトとなるよう工夫・改善を図っていく。</p> <p>・市の予算とは別に、バナー広告や記事有償代行などにより、財源確保をして、今後も双方で協力しあいながら、スポーツ情報を提供していく。</p>
--

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	認定NPO法人 湘南ふじさわシニアネット	担当課名	スポーツ課
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・経費の削減や新たな機能の取り組みに向けた検討事項が発生したため、定例会での協議が延長になることがあった。補完的な対応として、必要な都度メール交換により疑問点の解決を行った。メールの対応については1対1の対応にならないように、全体メールの設定を行うなど、情報の共有化に寄与した。
- またメールで対応できる点と定例会で議論した方が良い点の棲み分けを徹底して行うことにより、より効率的に課題を解決できるように取り組むことが出来た。
- ・相互の意見交換により、その特性を活かしたサイトを構築されつつある。特に、双方向からの視点で検討されているため、より市民の目線に合わせたサイトとなっている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・団体登録の件数が鈍化しており、当初の目標数までは達成することができなかった。統合的なサイトの意味合いからも、登録団体を増やしていくことは急務であるため、スポーツ団体の傘下団体や公民館等で活動されている団体まで裾野を広げて対応していく必要があり、行政側がさらに積極的にアプローチをしていかなければならない。
- ・平成27年度の訪問者数は、約56,000人、年間15万ビューを超える訪問実績があった。記事投稿を行う団体や記事の数も次第に増えていることから、市民参加型のいつでも、どこでも手軽に利用できるサイトを構築出来たと双方とも一致した考えである。
- ・アンケートの結果から6割以上の利用団体に好評を得るなど、利用いただいている方には、評価をいただいているが、まだ、サイトを閲覧していない方に向けた広報活動を検討していく必要がある。
- ・提案時の予算どおりでなくなったため、想定した機能の追加等ができず、理想とするサイト内容とはならなかったが、限られた予算の中で対応していただき、相応したサイトとなった。なお、経費に見合う以上の費用対効果があったと感じており、予算確保は、必達である。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・協働団体のノウハウを生かして、市民目線のサイトを構築することが出来た。
- ・行政側の一方的な情報発信ではない、利用者参加型のサイト（利用者が記事の編集、投稿をできる）を構築することができた。
- ・統合的な情報の整備とタイムリーに情報を提供することにより、ポータルサイトの役割を実現することが出来た。
- ・平塚市以外の行政とも協働で事業を行っているが、他市と比べ平塚市は意見を聞き入れる体制を作ってくれたため、意見を出しやすく、円滑に事業を実施することができた。
- ・掲載への依頼や記事投稿等の事務作業は増加したが、スポーツというカテゴリで市の事業を統合的に市民の方にアピールすることが出来た。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・現在ベルマーレの観戦記といった市民記者によるコラムを作成しているが、記事以外にも写真や動画など幅広いジャンルについて、市民に近い視点の方からサイトへの掲載を検討していきたい。
- ・昨年度は、当初の目標以上にバナー広告として¥10,000×6の費用を事業収入として得ることが出来た。今後はより持続的な事業を展開するためにも、バナー広告はもちろん、サイトへの広告や寄附、スポンサーなど様々な視点から事業収入を得ること検討していく必要がある。
- ・市内の有望な選手についてサイトを通して紹介するなど、東京オリンピックに向けた、啓発的な活動としても寄与していきたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・財源の確保については、スポーツ関係施設等のバナー広告の呼びかけを強化して行っていく。また、チーム記事の作成やイベント特集記事の作成を有償化して行うことにより、より多くの事業収入を得ることを目標に活動を行う。
- ・FBやツイッターといった相互コミュニケーション型の機能を拡充して広報活動を行うことについて検討を行う。
- ・サイト閲覧者の6割を超える方がスマートフォンを利用している点からも、チラシや広報紙への掲載について「QRコード」を積極的に使用していく。